

# 社会科学学習指導案

生徒 第3学年A組 男子21名 女子18名 計39名  
指導者 教諭 郡司直孝

## I 単元 公民的分野『(2) 私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割』

### II 単元の目標

国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割について考えることができる。

### III 単元について

本単元では、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国・地方公共団体が果たしている役割や財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせることを目的としている。また、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させることを目的としている。

本時では、少子高齢化の進展による、福祉を受ける側の増加と負担する側の減少という事象を踏まえて、社会保障制度を充実させていくための具体的な方法について、他者ととともに効率と公正などの視点などに基づいて考案する学習活動を展開する。

### IV 生徒の実態について

社会科における学習意欲は高く、個別事象に対する基礎的・基本的な知識を習得している生徒が多い。また、4名程度の小グループで議論することを通して、自らの考えを伝えるとともに他者の考えを自らの考えに生かすことのできる生徒が多い。

しかし、事象間の関連や因果関係を一方向的もしくは単純なものとして捉える傾向が強く、事象の多面性や事象間の関係における双方向性や複雑性を指摘できる生徒は少ない。また、自らの主張の根拠を生活経験に依る傾向が強く、資料に基づいて自らの考えや主張を根拠付けることを苦手としている生徒が多い。

### V 単元の評価規準

○国や地方公共団体が果たしている役割や財政の役割について、国や地方公共団体の経済活動に関わる様々な事象から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <b>【社会的な思考・判断・表現】</b>	○国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。 <b>【社会的事象への関心・意欲・態度】</b>
○国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 <b>【資料活用の技能】</b>	
○社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解し、その知識を身に付けている。 <b>【社会的事象についての知識・理解】</b>	

VI 指導計画（6時間扱い……本時4／6）

学習内容	指導内容	時間	評価計画			
			関	思	技	知
○政府の経済活動と租税	○財政の歳入と歳出における具体的な内容及び租税の大きな仕組みやその特徴について理解させる。	1	○			○
○政府の役割	○社会資本の整備や公共サービスの提供、社会保障のための支出、財政政策による景気の安定化など、財政によって政府が果たしている役割について理解させる。	1		○		○
○社会保障のしくみ	○社会保障制度のおこりや日本における基本的な内容について理解させる。	1			○	○
○少子高齢化と財政	○社会保障制度の一層の充実の必要性や少子高齢化など現代社会の特色を踏まえた上でのこれからの福祉社会の目指すべき方向について考えさせる。	1 (本時)	○	○		
○公害の防止と環境の保全	○公害などの環境汚染や自然破壊の問題及びその解決を図るための政府による環境保全対策の重要性やこれまでの取組について理解させる。	1			○	○
○単元のまとめ	○国民の生活と福祉の向上を図るために市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割を踏まえて単元を貫く学習課題を追究させる。	1	○	○		

VII 本時案

- 1 題材 「少子高齢化と財政」
- 2 学習目標 社会保障制度の充実した福祉社会の目指すべき方向について、意欲的かつ多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- 3 学習の展開

学習活動	教師の働きかけ	●指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
○少子高齢化の進展を、社会保障制度における福祉を受ける側の増加と負担する側の減少という側面で捉え直す。	○具体的な資料を示しながら、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。	●具体的な資料として主に「人口構成の変化」「社会保障給付費の推移」を示す・
○少子高齢化の進展による社会保障制度の課題解決のための日本での対応や、海外における社会保障のあり方を理解する。	○介護保険制度等の導入や高福祉高負担・低福祉低負担の国を例示して説明する。	
<b>少子高齢化の中で社会保障を充実させるためには、どのような方法があるか？</b>		
○少子高齢化の中で社会保障を充実させるための具体的な方法を考える。	○机間指導を行い、生徒の記述状況を把握するとともに、効率と公正の視点に基づいた方策となるよう助言を与える。	●社会保障制度の継続及び充実を前提とする。
○4人でグループを構成し、それぞれが考案した具体的な方法を説明し合うとともに批評し合う。	○机間指導を行い、円滑で深まりのある協議の展開に資する助言を与える。	●批評にあたっては、効率と公正などの視点を基に行わせる。
○少子高齢化の中で社会保障を充実させるための具体的な方法を考える。	○机間指導を行い、重要な視点に立って記述している生徒を把握する。 ○数名の生徒を指名し発表させる。	◇少子高齢化の進展の中でも福祉と負担のバランスが考慮された社会保障制度を充実させるための具体的な方法について、意欲的かつ多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しているか。（ワークシート）
<p>歳入の増加・歳出の減少の両方を検討する方法が考えられる。例えば、増税や公共事業の削減などである。さらに社会保障費そのものを減少させるために、疾病予防対策の強化や安価な医薬品の利用促進なども考えられる。</p>		
○単元を貫く学習課題を考える。	○本時の学習内容を踏まえて記述させる。	●前時までの自らの記述からの変容に注目させる。

# 社会科学学習指導案

生徒 第3学年C組 男子20名 女子19名 計39名

指導者 教諭 郡司直孝

## I 単元 公民的分野『(2) 私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割』

### II 単元の目標

国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割について考えることができる。

### III 単元について

本単元では、国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国・地方公共団体が果たしている役割や財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせることを目的としている。また、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させることを目的としている。

本単元の学習のまとめとなる本時では、単元を通して追究し続けてきた学習課題「2019年4月1日からの消費税率2.2%への引き上げに賛成か、反対か」に対する自らの立場及びその理由を説明するとともに、様々な立場や理由を持つ他者との協議を通して、国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割を多面的・多角的に考察することのできる学習活動を展開する。

### IV 生徒の実態について

社会科における学習意欲は高く、個別事象に対する基礎的・基本的な知識を習得している生徒が多い。また、提示された資料の中から自らに必要な情報を読み取ることを得意とする生徒が多い。さらに、ディスカッションや協働学習に対して意欲的に取り組む様子が見られ、他者の意見や考えを踏まえて自己の課題追究に生かそうとすることができる。

しかし、事象間の関連や因果関係を一方向的もしくは単純なものとして捉える傾向が強く、事象の多面性や事象間の関係における双方向性や複雑性などを指摘できる生徒は少ない。また、自らの課題解決のために必要な資料を自ら収集し、資料に基づいて自らの考えや主張を根拠付けることを苦手としている生徒が多い。

### V 単元の評価規準

○国や地方公共団体が果たしている役割や財政の役割について、国や地方公共団体の経済活動に関わる様々な事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <b>【社会的な思考・判断・表現】</b>	○国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。 <b>【社会的事象への関心・意欲・態度】</b>
○国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 <b>【資料活用の技能】</b>	
○社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解し、その知識を身に付けている。 <b>【社会的事象についての知識・理解】</b>	

VI 指導計画（6時間扱い……本時6／6）

学習内容	指導内容	時間	評価計画			
			関	思	技	知
○政府の経済活動と租税	○財政の歳入と歳出における具体的な内容及び租税の大きな仕組みやその特徴について理解させる。	1	○			○
○政府の役割	○社会資本の整備や公共サービスの提供、社会保障のための支出、財政政策による景気の安定化など、財政によって政府が果たしている役割について理解させる。	1		○		○
○社会保障のしくみ	○社会保障制度のおこりや日本における基本的な内容について理解させる。	1			○	○
○少子高齢化と財政	○社会保障制度の一層の充実の必要性や少子高齢化など現代社会の特色を踏まえた上でのこれからの福祉社会の目指すべき方向について考えさせる。	1	○	○		
○公害の防止と環境の保全	○公害などの環境汚染や自然破壊の問題及びその解決を図るための政府による環境保全対策の重要性やこれまでの取組について理解させる。	1			○	○
○単元のまとめ	○国民の生活と福祉の向上を図るために市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割を踏まえて単元を貫く学習課題を追究させる。	1 (本時)	○	○		

VII 本時案

1 題 材 「単元のまとめ」

2 学習目標 財政や租税の意義と役割について、意欲的かつ多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

3 学習の展開

学習活動	教師の働きかけ	●指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
○前時までの学習内容を想起する。	○これまでの授業で用いたプレゼンテーションソフトを示す。	●本時の学習課題の追究に特に関連する内容を確認する。
<b>2019年4月1日からの消費税率2.2%への引き上げに賛成か、条件付賛成か、反対か？</b>		
○単元を貫く学習課題に対する自らの記述に基づいて、自らの立場と理由（条件）を要約する。	○自らの立場を明確にさせた上で、その理由を箇条書きで整理させる。	●隣同士は同じ「責任」に取り組ませる。
○様々な立場や理由（条件）を持つ者と互いの考えを説明し合うとともに批評し合う。	○机間指導を行い、円滑で深まりのある協議の展開に資する助言を与える。 ○初めは自分の座席近くの者との活動させるが、その後は移動を認めより広く交流させる。	●座席は異なる立場や理由（条件）の者同士が隣になるように配置する。 ●批評にあたっては、効率と公正などの視点を基に行わせる。
○単元を貫く学習課題に対する自らの立場と理由（条件）を考える。	○机間指導を行い、重要な視点に立って記述している生徒を把握する。 ○数名の生徒を指名し発表させる。	◇財政が消費税やその他の租税によって歳入が確保されることで成り立ち、その配分によって国民生活が豊かなものになっていることについて意欲的かつ多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しているか。（ワークシート）
<p>○消費税の増税による歳入増で、国債の発行を減らし、少子高齢化による社会保障の財源不足の解決や社会資本の整備、環境保全の取組などによって国民生活をより豊かなものにすることができる。</p> <p>○好景気での増税は景気の過熱を抑える効果が期待される。</p> <p>○増税までに4年あるので、増税による弊害に関する議論を行い、対策を講じることができる。</p> <p>●間接税である消費税は、経済的に苦しい人ほど負担が大きくなってしまう。</p> <p>●不景気での増税は国民の需要を低くし、商品の購入などを控える動きが強まるため、税収が増えないおそれがある。</p> <p>●消費税の増税幅がとて大きいので、国民生活に与える影響も大きい。</p>		

